

シーン

豚の村でストーリーです。

登場人物：狼、おかさん、豚三兄弟

設定場面：母豚は三人の子豚に家を建てさせました。三匹の子豚は家を建てましたが、ある晩、狼（おおかみ）が豚村に入ってきました.....

シーン 1. 母豚は三匹の子豚を豚村に住んでいました。三匹の子豚は、兄は大阪ぶたジへ『まいど!』、そして野郎豚アイリーン『よおっ、オッス』、男の子豚ローマンです『おはよう』。この日、母豚は豚三兄弟に言いました:「あなたたちはもう大きくなって、自分の家を建ててください。」豚三兄弟:『ええで。』『いいぜ。』『いいよ』。

シーン 2 大阪豚は草の家を建てました。『自分の言葉良く考えてください〜』

シーン 3 野郎豚が木の家を作りました。『俺の家かっこいいじゃん!』

シーン 4 一番小さい男の子豚は、苦勞を恐れずにレンガの家を建てました。『自分の言葉良く考えてください〜』

シーン 5 ある晩、一匹のオオカミがこっそりとブタの村に忍び込みました。彼はとてもお腹がすいていたので、豚を見つけて食べようと思いました。『ワハハ。おいしい豚はどこだ。』

狼は一気にジへの草の家とアイリーンの木の家を吹き飛ばしました。『』『やめろ! 何しやがる!』

二匹豚はローマンの家に逃げ込みました。ローマンの家はとても頑丈だったので、オオカミは中に入ることができませんでした。『男の子の言葉』その結果、三匹の子豚は安全に一緒に住むことができました。『』『おおっ、ラッキー。』『』

シーン 1

ローマン：語り手：ある豚村で、母豚と三匹の子豚が一緒に住んでいました。

ジヘ：母豚：まあ、一人暮らしの年頃なのかなー。

ジヘ：大阪豚：でも、いきなりでしょ？お金がないし、自分で一回も働いたことがないし

ジヘ：母豚：もう、大きくなったよ。とにかく、特に甘えさせたから。明日の朝までに荷物を片付けて出なさい！

ローマン：語り手：それで、次の朝、三匹の子豚が一緒に三匹だけ暮らしを始めていきました。

シーン 2

ジヘ：大阪豚：残念。木材やブリックなどの用品が高すぎる。じゃ、わらがいいんでしょ。お金がかからないから。

シーン 3

アイリン：野郎豚：あ！枝だ！腕で家を建てるのに使う。なんて天才だ。

シーン 4

ローマン：男の子豚：なんで、お兄さんが大人だけど、私はまだだ。少なくとも、お母さんにお金をくれた。

ローマン：男の子豚：余裕がありそうから、レンガの家が建てる。

ローマン：語り手：すると、他の豚にとっては、男の子豚がかわいそうに見えましたから、手伝ったので、その日のうちに終わることができました。

シーン 5

ローマン：語り手：ある晩、豚の村の近くに住んでいた狼が起きて、豚の村に忍び込みました。

アイリン：狼：おなかがすいたなあ。まず、どの家に入る…あそこで、わらの家が見える。入りやすいはずだ！

（大阪豚の家）

ローマン：語り手：そうして、狼が大阪豚の家を潰れて、豚を食べてみました。けれども、大阪豚は目が覚めて、逃げました。

アイリン：狼：逃げないよ！

ジヘ：大阪豚：助けて！誰か起きている？

ジヘ：大阪豚：やばい！誰も答えていない。弟を探したほうがいいのか。

（野郎豚の家）

ローマン：語り手：しばらくして、野郎豚は…

アイリン：野郎豚：？？？誰が聞いているのが聞こえる…お兄さんの声！

ジヘ：大阪豚：入らせて！狼に追いかけているよ。

（大阪豚が入る）

アイリン：狼：大阪豚があその木の家に入ったのをみた。今回、ノックしてみよう。（ノック音）あの一、狼が見えて、怖いんです…もしかしたら、中に入っても大丈夫ですか？

ジヘ：大阪豚：すみませんが、入らせません。狼かどうかを見られなくて、危ないんです。

アイリン：野郎豚：お兄さん、あいつが狼だって知っている？

アイリン：狼：聞いてよ！食べていないのは長いことと、本当にこの豚を追いかける気にならないよ。一匹でもいいから食べたい。それだけだ。

ジヘ：大阪豚：マジ？出ていけ！

アイリン：狼：それなら…

(クラッシュ音)

(男の子豚の家)

(走る足音)

ローマン：男の子豚：なんだ、足音？見てみる…あ！お兄さんだ！そしてその狼か！なんでここに狼がいるんだ？

ローマン：男の子豚：お兄さん！ここにいる！早く！

(大阪豚と野郎豚が入る)

アイリン：狼：無理だよ。この家も、前とつぶれる。

アイリン：野郎豚：そうか。どうぞー。

ローマン：語り手：狼がレンガの壁を蹴破ってみて。。。。

アイリン：狼：あれ？

ローマン：語り手：骨折してしまいました。

アイリン：野郎豚：ただ、どうなると思ったんだ？

ローマン：語り手：こうして、涙をこぼし、狼が豚の村からでました。三匹の子豚は、安全に一緒に住むことができました。おしまい。